

島根原子力発電所1号機 第29回定期検査の実施状況
(平成23年 2月20日現在)

主要事項

連絡項目	実施日
定検開始	H22.11.8
原子炉起動	
試運転開始	
発電開始	
総合負荷性能検査	

原子炉関係

連絡項目	実施日
原子炉格納容器開放	H22.11.9
原子炉压力容器開放	H22.11.13
燃料取出	H22.11.16~H22.11.21
制御棒、中性子検出器取替	H22.11.23~H22.11.26
制御棒駆動機構機能試験	
燃料装荷	
原子炉压力容器復旧	
原子炉压力容器漏えい検査	
原子炉格納容器漏えい率検査	

タービン関係

連絡項目	実施日
車室分解開始	H22.11.18
車室分解完了	H22.12.13
車室組立開始	H23.2.4
開放検査終了	
車室組立完了	

主要工事

連絡項目	実施日
制御棒駆動機構取替工事	H22.11.22~
出力領域計装取替工事	H22.11.23~
制御棒取替工事	H22.11.24~
耐震裕度向上工事	H22.11.15~
原子炉冷却材浄化系再生熱交換器および非再生熱交換器改造工事	H22.12.6~

主 要 工 事

連 絡 項 目	実 施 日
主蒸気安全弁および逃し弁（安全弁） 改造工事	H23. 1. 21～
原子炉再循環ポンプケーシングカバー 取替工事	
原子炉再循環系配管他高周波加熱処理工事	H23. 2. 2～
原子炉再循環系配管等点検	H22. 12. 17～
復水・給水系配管等点検	H23. 1. 17～

《特記事項》

・原子炉再循環系配管等の点検状況について

平成22年12月17日（金）から原子炉再循環系配管等溶接部69箇所について、超音波探傷検査による点検^{※1}を実施していたが、平成23年1月18日（火）、A-原子炉再循環系配管の溶接継手部1箇所に、ひびを確認した。

その後、当該溶接継手部のひびについて寸法測定等を実施した結果、長さ547ミリメートル、深さは最大5ミリメートルであることを確認した。

当該溶接継手部の現時点での健全性について、現在のひびの長さ、深さをもとに評価した結果、必要な強度を満たしていることを確認した。

今後、一定期間運転を継続した場合の健全性評価^{※2}を実施し、継続使用の可否を確認する。

また、残りの箇所についても、引き続き、超音波探傷検査を実施していたが、平成23年2月17日（木）、A-原子炉再循環系配管の溶接継手部1箇所に、新たなひびを確認した。

当該溶接継手部についても、今後、ひびの長さ、深さ等の詳細調査を行ったうえで必要な処置を実施する。

※1 平成21・11・18原院第1号「発電用原子力設備における破壊を引き起こすき裂その他の欠陥の解釈について（内規）」に基づく検査

※2 一定期間運転した後のひびの進展量を予測し、「(財)日本機械学会 発電用原子力設備規格 維持規格（2008年版）JSME S NA1-2008」に基づき、予測したひびの長さ、深さで必要な強度を満たしているかどうかを評価する

【その他不適合事象】

・点検作業誤りによる原子炉浄化系の停止について

平成22年11月17日（水）14時59分、計器点検準備作業において、本来切離すべきケーブルに隣接した、別のケーブル端子を誤って外したことにより、原子炉浄化系[※]の入口弁が自動的に閉じ、原子炉浄化系補助ポンプが自動停止した。

その後、直ちに当該ケーブル端子を接続し、同日16時06分に原子炉浄化系補助ポンプを再起動した。

なお、原子炉浄化系をはじめ発電所全体の状態を確認したところ、異常はみられなかった。また、当該事象による作業員の被ばくはなく、外部への放射能による影響もなかった。

今後、不適合管理を行うとともに、再発防止を図る。

※ 原子炉浄化系

原子炉内を循環する冷却水から不純物を取り除き、水質を管理するための系統

以上